

2015年度入学試験問題

日本史 B

(試験時間 13:15~14:15 60分)

1. この問題は、入学願書提出時に選択した科目の問題です。科目名を確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙は、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類がありますので注意してください。
3. 解答は、必ず解答欄に記入してください。なお、解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。また、折りまげたり、汚したりしないでください。記述解答用紙の下敷きにマーク解答用紙を使用することは絶対にさけてください。
5. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。
6. マーク解答用紙の受験番号および受験番号のマーク記入は、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないよう特に注意してください。

I つぎの(1), (2), (3)の文章及び(4)の史料を読んで、それぞれの設問に答えなさい。解答は、漢字を用いるべきところは正確な漢字で記入し、マークすべきところは一つ選んで、その記号をマークしなさい。なお、史料の原文は漢文であるが、読みやすいように書き改めてある。(40点)

(1) 1335年、後醍醐天皇に反旗を翻した足利尊氏は、翌年、天皇の新政権を崩壊させて京都で^①光明天皇を擁立し、(A)を定めて室町幕府を実質的に成立させた。これに対し、後醍醐天皇が京都から吉野に逃れて皇位の正統を主張したため、皇統は吉野の南朝と京都の北朝とに分裂し、南朝側の勢力と尊氏らの北朝側勢力との間で対立がはじまり動乱となった。

^③こうしたなかで尊氏は1338年に光明天皇より征夷大將軍に任じられ、室町幕府は名実ともに発足したが、幕府内に争乱がおこったこともあって、動乱は長期にわたってつづき、(B)などの権限を与えられた守護が守護大名へ成長する姿もみられた。

その後、動乱は、14世紀後半の足利義満が將軍となるころにようやくおさまるようになり、義満は南北兩朝を合一させ、大きな勢力を持つようになった守護大名を統制した。このため、義満が幕府の実権を掌握した時代の政治は安定し、足利義持や義量が將軍を務めた頃の室町幕府の政治も比較的安定していた。

しかし、15世紀前半に兄義持の死後將軍となり、將軍権力を強化するために専制的な政治を推進した(C)が守護大名に殺害されると、室町幕府は動揺するようになった。さらに、(C)の子であった足利義政が將軍を務める時代になると、將軍の後継者問題などから応仁の乱がおこり、幕府の権威は失墜して再び戦いの時代を迎え、各地には戦国大名が登場するようになった。^④
^⑤

問1 下線部①に関するつぎの記述ア～オから、正しいものを一つ選び、その記号をマークしなさい。

ア. 文保の和談が行なわれた翌年の1318年に即位したのが、大覚寺統の後醍醐天皇であった。

- イ、後醍醐天皇は正中の変で倒幕に失敗し、日野資朝や日野俊基らとともに捕らえられ、隠岐に配流された。
- ウ、鎌倉幕府軍を率いていた新田義貞は後醍醐天皇に呼応し、京都にあった六波羅探題を攻略した。
- エ、元弘の変では、後醍醐天皇の皇子であった護良親王も捕らえられ、佐渡に配流された。
- オ、後醍醐天皇を中心とした建武の新政では、天皇から下される宣旨によって所領の安堵を行うことを原則とした。

問2 空欄Aには、室町幕府の施政方針とされたものの名称が入る。その名称を記しなさい。

問3 下線部②が政治を行った時代の経済に関するつぎの記述ア～オから、正しいものを一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ア、商工業では、株仲間という組織がみられた。
- イ、室町幕府は、商取引の円滑化をはかるため、撰銭令を発令した。
- ウ、振売や連雀商人は、常設の見世棚で商品を販売した。
- エ、京都などでは、土倉や札差という金融業者が活動した。
- オ、馬借や車借は、室町幕府の公用荷物の運送を専門に担う業者であった。

問4 下線部③のつづいた57年間を南北朝時代ともいうが、この時期におこったつぎの事柄a～eについて、その事柄のおこった年代順に正しく配列されているものを、下のア～オから一つ選び、その記号をマークしなさい。

- a、後亀山天皇が帰京して譲位した。
- b、義良親王が即位して後村上天皇となった。
- c、北畠顕家が和泉国石津で討ち死にした。
- d、光厳天皇の弟が即位した。
- e、高師直が殺害された。
- ア、b→d→a→c→e

イ. $c \rightarrow b \rightarrow d \rightarrow a \rightarrow e$

ウ. $c \rightarrow d \rightarrow b \rightarrow e \rightarrow a$

エ. $d \rightarrow b \rightarrow c \rightarrow a \rightarrow e$

オ. $d \rightarrow c \rightarrow b \rightarrow e \rightarrow a$

問5 空欄Bには、守護に与えられた権限のうち、幕府の裁定を強制執行することを示す名称が入る。その名称を記しなさい。

問6 空欄Cにあてはまる人物の姓名を記しなさい。

問7 下線部④のおこる以前の1454年に、鎌倉公方足利成氏が関東管領上杉憲忠を暗殺したことからはじまった戦乱の名称を記しなさい。

問8 下線部⑤に関するつぎの記述ア～オから、正しいものを一つ選び、その記号をマークしなさい。

ア. 1568年、駿河国・遠江国・三河国を支配していた今川義元は上洛する途上の戦いで討たれた。

イ. 安芸国の一国人であった毛利輝元は、陶晴賢や大内氏を滅ぼし、中国地方の大きな戦国大名に成長した。

ウ. 越後国守護代であった長尾景虎の子の為景は、関東管領であった上杉氏を継承して上杉謙信と称した。

エ. 伊勢宗瑞は、伊豆国堀越の足利政知を追い、その後相模国の小田原に拠って勢力を拡大した。

オ. 甲斐国を領国としていた武田晴信は、領国の拡大に努め、信濃国の川中島へしばしば出陣した。

(2) 戦国の争乱がつづいていた16世紀の中頃、ヨーロッパ人が日本へも来航し、日本人びとと交流するようになった。^⑥

こうしたなか、国内でつづいていた戦国の争乱は16世紀後半になってようやく

終盤を迎え、争乱のなかから織田信長が台頭した。信長は尾張国を統一して領国としたのち、領国周辺の戦国大名たちを打倒し、岐阜城を居城とする頃から「天下布武」の印章を用い、全国統一の意思を明確にした。そして、1582年には、安土城を拠点に、関東地方の一部から中国地方に及ぶ地域を支配するにいたった。

また、信長は支配地域に新たな体制を成立させようとし、独自の商業活動をしてきた堺を直轄地に組み入れ、関所を撤廃させ、安土城下などに（ D ）を発令するなどの施策を行った。

問9 下線部⑥に関するつぎの記述ア～オから、誤っているものを一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ア. 『鉄炮記』によれば、種子島に漂着した船に乗っていた外国人によって鉄砲が伝えられたのは、1543年であった。
- イ. 1584年、スペイン船が九州の肥前国にある平戸島に來航した。
- ウ. ポルトガル人やスペイン人は、南蛮人と呼ばれたため、ポルトガル人やスペイン人が日本と行った貿易を南蛮貿易という。
- エ. 來日した宣教師のフランシスコ=ザビエルは、黒田孝高や大友義鎮の保護を受け布教を行った。
- オ. 織田信長は、安土城下にセミナリオを設置することや、京都に南蛮寺を建てることを認めた。

問10 下線部⑦が行ったつぎの事柄a～dについて、その事柄のおこった年代順に正しく配列されているものを、下のア～オから一つ選び、その記号をマークしなさい。

- a. 近江国の小谷城を攻略し、浅井長政を自刃させた。
 - b. 斎藤龍興と戦い、その居城を攻略した。
 - c. 武田勝頼を攻め、天目山の戦いで自刃させた。
 - d. 戦いをつづけていた本願寺の顯如と講和した。
- ア. a → b → d → c
 - イ. a → d → c → b

- ウ. b → a → d → c
- エ. b → c → a → d
- オ. b → d → a → c

問11 下線部⑦や豊臣秀吉に仕え、現在、山形県の米沢市上杉博物館に所蔵されている「洛中洛外図屏風」や、宮内庁に所蔵されている「唐獅子図屏風」を描いた人物の姓名を記しなさい。

問12 空欄Dには、商工業者に自由な営業活動を認めた法令の名称が入る。その名称を記しなさい。

(3) 関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康が、1603年に征夷大將軍となって江戸幕府が開かれ、江戸時代がはじまった。

当初、江戸幕府の支配機構は將軍の側近などが適宜に政務を担う簡素なものであったが、次第に整備されて3代將軍家光の頃までに整い、將軍は各地の大名を統制し、朝廷や寺社も統制した。^⑧また、將軍や大名らは、百姓や町人らを支配し、江戸時代の社会は、武士が特権を持つなど、身分制の秩序によって維持された。

そして、幕府の政治は、家光の頃まで戦国時代以来の武斷的な傾向が強かったが、家綱が4代將軍となった頃からは文治主義的な傾向を強め、その後文治主義的傾向の強い政治は7代將軍家継の時代までつづいた。^⑨

一方、江戸時代になると社会が安定したこともあり、茶や（ E ）のような特産物が各地に生まれるなど農業が進展し、陸上の交通網や水上の交通網が整えられ、貨幣制度も確立して商業も大いに進展した。^⑩

問13 下線部⑧の時代を中心にみられた文化を寛永期の文化というが、この寛永期の文化の作品である「舟橋蒔絵硯箱」を制作した人物の姓名を記しなさい。

問14 下線部⑨の時期にみられたつぎの事柄 a～e について、その事柄のおこった年代順に正しく配列されているものを、下のア～オから一つ選び、その記号をマークしなさい。

- a. 保科正之らに補佐されて幕政を担っていた将軍は、将軍職就任 12 年目に代替わりの武家諸法度を発布し、あわせて殉死の禁止を命じた。
- b. 新たな宮家として閑院宮家が創設され、東山天皇の皇子であった直仁親王が初代の閑院宮となった。
- c. 富士山の大噴火は、駿河国や相模国などに火山灰が降るなどの大きな災害をもたらした。
- d. 下総国古河の藩主であった堀田正俊が大老に就任し、江戸幕府の政治を主導することになった。
- e. 江戸で大火が発生し、市街地の過半が焼失してしまい、江戸城の天守閣も類焼した。

ア. a→d→e→c→b

イ. a→e→d→b→c

ウ. d→a→c→b→e

エ. e→a→d→c→b

オ. e→d→c→b→a

問15 空欄 E には、四木三草の一つである、出羽国の村山郡で多く生産された作物の名称が入る。その名称を記しなさい。

問16 下線部⑩に関するつぎの記述ア～オから、正しいものを一つ選び、その記号をマークしなさい。

ア. 宿駅に設けられた問屋場は、公用荷物の継ぎ送りなどを行う施設であり、また、大名らの宿泊施設でもあった。

イ. 江戸の日本橋からはじまる甲州道中は、信濃国の上諏訪宿で中山道に接続していた。

ウ、五街道の一つであった中山道には67の宿があり、碓氷関と新居関が設けられていた。

エ、北国街道、伊勢街道、中国街道や長崎街道などは、脇街道もしくは脇往還と呼ばれた。

オ、江戸と京都を結んでいた東海道には、川崎より大津まであわせて53の宿があった。

(4) 史料

詔して曰く、「聞くならく、墾田は養老七年の格に依りて、限満つる後、例に依りて収授す。是に由りて農夫怠倦して、開ける地復た荒る、と。今より以後は、任に私財と為し、(F) を論ずること無く、戚悉くに永年取る莫れ。其の親王の一品及び一位は五百町、二品及び二位は四百町、三品・四品及び三位は三百町、四位は二百町、五位は百町、六位已下八位已上は五十町、初位已下庶人に至るまでは十町、但し郡司には、大領・少領に三十町、主政・主帳に十町。若し先より地を給ふこと茲の限より過多なるもの有らば、便即ち公に還せ。(中略)」と。

問17 この史料は、法令を示したものである。この法令が出された年として正しいものを、つぎのA～オから一つ選び、その記号をマークしなさい。

A. 722年

I. 723年

ウ. 741年

エ. 743年

オ. 752年

問18 空欄Fにあてはまる言葉を記しなさい。

問19 この史料に示した法令が出された年に、太政官の最上職に就いて政治を主導していた人物の姓名を記しなさい。

問20 この史料の記事が収められている歴史書の名称として正しいものを、つぎのア～オから一つ選び、その記号をマークしなさい。

- ア. 古事記
- イ. 日本書紀
- ウ. 続日本紀
- エ. 日本後紀
- オ. 続日本後紀

II つぎの文章 (A～E) 中の空欄 (a～h) に入れるのにもっとも適切な語句を考え、漢字を用いるべき所には正確な漢字で、記入しなさい。人名は姓名を記しなさい。また、設問 (①～⑦) については、もっとも適切なものをそれぞれ一つ選び、その記号をマークしなさい。なお、史料中の片仮名表記は一部、平仮名表記に書き改めてある。(30点)

- A. 幕府では桜田門外の変の後、幕府の権威の回復をはかるべく、朝廷との融和をめざす (a) [漢字4字] 路線が採られ、将軍家茂と孝明天皇の妹和宮との政略結婚がおし進められたが、その交換条件として幕府は、1863 (文久3) 年5月10日を期して (b) [漢字2字] の決行を諸藩に命じることとなった。
- B. 1868 (明治元) 年閏4月に公布された政体書では、新政府の組織について「天下の権力総てこれを (c) [漢字3字] に帰す」と述べられるとともに、「(c) の権力を分つて、立法行政司法の三権とす」、「諸官四年を以て交代す。公選入札の法を用ふべし」とも述べられ、三権分立や官吏公 (五) 選制などについて言及されている。しかしながら、こうした政治制度は完全には実施されなかった。
- C. 1871 (明治4) 年11月、条約改正の予備交渉のため、岩倉具視を大使、木戸孝允・大久保利通・(d)・山口尚芳を副使とする使節団が欧米に向け出発した。この使節団の岩倉大使が帰国した1873 (明治6) 年9月まで、国内では (e) を太政大臣とする留守政府が、近代化政策に着手していった。
- D. 1925 (大正14) 年4月に公布された治安維持法の第1条では、「国体を変革し又は (f) [漢字4字] 制度を否認することを目的として結社を組織し又は情を知りて之に加入したる者」に対する罰則が明記された。普通選挙制による初めての総選挙で、1926 (昭和元) 年に組織された労働農民党、日本労農党、(g) [漢字4字] 党など合法的な無産政党から8名が当選すると、政府は治安維持法を適用して共産党員の一斉検挙を行った。

E. 1939 (昭和14)年9月、ドイツ軍の(h) [国名] 侵攻によって第二次世界大戦が開戦した。日本政府は当初、大戦不介入の方針をとったが、翌年にはドイツ軍がバリに入城するなど電撃的勝利を収める中で、ドイツとの結びつきを深め、南方進出をはかるようになった。

〔設問〕

①Aに関して、幕府内にあってこうした路線を主導した人物としてもっとも適切なのはだれか。

- ア. 安藤信正
- イ. 阿部正弘
- ウ. 橋本左内
- エ. 井伊直弼
- オ. 徳川昭武

②Aに関連して、幕末に発生した諸事件a～eについて、古いものから年代順に正しく配列されたものを、下のア～オのうちから一つ選び、その記号をマークしなさい。

- a. 薩長同盟の締結
 - b. 四国艦隊下関砲撃事件
 - c. 安政の大獄
 - d. 徳川慶喜の将軍就任
 - e. 生麦事件
- ア. c → b → a → e → d
 - イ. e → c → b → d → a
 - ウ. b → c → e → d → a
 - エ. e → b → c → a → d
 - オ. c → e → b → a → d

③Bに関する説明として誤っている文はどれか。

- ア. 政体書の起草にあたっては、アメリカ合衆国の制度も参考にされた。
- イ. 政体書は、福岡孝弟・副島種臣らによって起草された。
- ウ. 立法機関として置かれた議政官では、議定・参与からなる上局と、各府藩県選出の貢士からなる下局とで構成された。
- エ. 政体書で言及されている官吏公（互）選は、一度も実施されなかった。
- オ. 政体書では、政府直轄地のうち東京・大阪・京都など重要地を府、他を県とし、それぞれ知府事、知県事を置くことが述べられている。

④Cに関して、留守政府によって実施された施策として不適切なものはどれか。

- ア. 壬申戸籍の編成
- イ. 新橋・横浜間の鉄道開業
- ウ. 廃藩置県の実施
- エ. 学制の公布
- オ. 陸軍省・海軍省の設置

⑤Dの治安維持法に関する説明としてもっとも適切な文はどれか。

- ア. 治安維持法の制定は政府・議会の反共思想を背景としており、ソ連との国交樹立も先送りされることとなった。
- イ. 治安維持法は1928（昭和3）年に帝国議会で改正案が成立し、最高刑が死刑・無期懲役に引き上げられた。
- ウ. 治安維持法による厳しい弾圧の下、佐野学や野坂参三など、転向声明書を発表する共産党員も相次いだ。
- エ. 1945（昭和20）年8月の敗戦後も治安維持法は適用され続けたが、同年10月のGHQによる人権指令にしたがって廃止された。
- オ. 終戦直後に起こった横浜事件では、雑誌掲載論文をきっかけに約60人の編集者、新聞記者などが治安維持法違反容疑で逮捕された。

⑥Dに関して、共産党員の一斉検挙（三・一五事件）を行ったのは、どの内閣の時か。

- ア. 加藤高明内閣
- イ. 田中義一内閣
- ウ. 高橋是清内閣
- エ. 若槻礼次郎内閣
- オ. 清浦奎吾内閣

⑦Eに関して、第二次世界大戦開戦から太平洋戦争開戦に至る日本政府・軍部の動きに関する説明としてもっとも適切な文はどれか。

- ア. 1940（昭和15）年9月、日独伊防共協定を締結した。
- イ. 日本軍の北部仏印進駐に対して、アメリカ政府は対日資産凍結・石油輸出禁止などの制裁措置を発動した。
- ウ. ドイツ軍がソ連に侵攻して独ソ戦がはじまると、日本政府は日ソ中立条約を結び、南方への進出に専念できる体制をつくった。
- エ. 独ソ戦開戦後、日本陸軍はシベリアなどソ連領占領計画を立て、関東軍特種演習（関特演）を名目に約70万人の兵力を満州に集結させた。
- オ. 近衛文麿政権に代わって東条英機政権が成立すると、一党一党をめぐす新体制運動が進展し、大政翼賛会が結成された。

Ⅲ つぎの文章（1～7）の空欄（ア～ケ）に入れるのもっとも適切な人名（姓名）または語句を考え、正確な漢字で記入しなさい。また、括弧（①～⑥）については、もっとも適切な語句をそれぞれの括弧の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。（30点）

1. 1855年に備中国に生まれた（ア）は、新聞記者をへて、統計院に入った。1882年に立憲改進黨の創立に参加し、政党人となった。1890年の総選挙で岡山県から立候補し、当選した（以後、17回連続当選）。進歩党・憲政黨などに所属した。1898年には文部大臣となった。1912年には第一次護憲運動に参加した。第二次山本内閣と護憲三派内閣では通信大臣となり、男子普通選挙制の実現につとめた。1922年には中野正剛・尾崎行雄らと、①（a. 憲政本党 b. 革新倶楽部 c. 政友本党 d. 進歩党 e. 政友会）を結成した。1929年に政友会総裁に就任し、1931年には内閣を組織したが、五・一五事件で海軍青年将校らに暗殺された。
2. 1856年に日向国に生まれた（イ）は、陸軍士官学校を卒業後、累進して、日露戦争には第四軍参謀長として参戦した。日露戦争後、男爵となった。1912年、②（a. 第一次桂内閣 b. 第二次桂内閣 c. 第一次西園寺内閣 d. 第二次西園寺内閣 e. 第二次大隈内閣）の陸軍大臣となり、2個師団増設を主張して、内閣の緊縮政策と対立し、単独辞任して内閣を倒した。1915年から1923年まで参謀総長をつとめ、1921年には元帥となった。1933年没。
3. 1867年に美作国に生まれた（ウ）は、帝国大学法科大学卒業後、司法省に入り、1905年に大審院検事、1906年に司法省民刑局長となった。日糖疑獄事件や幸徳事件の処理で名を上げ、1912年に検事総長、1926年に枢密院副議長、1936年に同議長となった。この間、国本社会長に就任した。「右翼」とみられ、政界に隠然たる影響力をもった。1939年に内閣を組織したが、③（a. 大政翼賛会の結成 b. 日米交渉の行き詰まり c. 日独伊三国軍事同盟の結成 d. ノモンハン事件の勃発 e. 独ソ不可侵条約の締結）を機に総辞職した。1952年没。

4. 1868年に岡山県に生まれた(エ)は、陸軍士官学校・陸軍大学校卒業後、陸軍内で累進し、1923年に陸軍次官となった。1924年に陸軍大臣になり、以後4代の内閣の陸相をつとめた。この間、④(a. 1個師団[兵員2万3千人]削減 b. 2個師団[兵員4万7千人]削減 c. 4個師団[兵員9万3千人]削減 d. 6個師団[兵員13万8千人]削減 e. 8個師団[兵員18万4千人]削減)を内容とする陸軍軍縮と、軍の近代化につとめた。また、浜口内閣でも陸軍大臣となった。1931年に朝鮮総督となり、1937年には組閣の大命を受けたが、(オ)制を武器とする陸軍の反対で組閣に失敗した。1956年没。

5. 1887年に京都に生まれた(カ)は、東京帝国大学法科大学を卒業後、外務省に入り、ロシア・フランス・トルコ・ベルギーの大使館につとめた。満州事変勃発後に外務省を辞め、1932年に代議士に当選した(政友会所属)。戦後、日本自由党の結成に加わり、幣原内閣に厚生大臣として入閣し、第一次吉田内閣では衆議院憲法改正特別委員長をつとめた。1947年、民主党の結成に参加し、まもなく総裁となった。1948年には内閣を組織し、首相兼外相をつとめたが、同年、(キ)疑獄事件で辞職した。1959年没。

6. 1890年に東京に生まれた(ク)は、女子英学塾を卒業した。堺利彦らの平民社に関心をもち、社会主義者と結婚した。1918年には、与謝野晶子・平塚らいてうらと「母性保護論争」をおこなった。1921年には、社会主義の立場に立つ、⑤(a. 赤瀾会 b. 新婦人協会 c. 青鞥社 d. 婦人参政権獲得期成同盟 e. 矯風会)を結成した。戦後、労働省婦人少年局が設置されると、初代局長になった。1980年没。

7. 1903年に秋田県に生まれた(ケ)は、小樽高等商業学校を卒業し、北海道拓殖銀行につとめた。1927年、労農芸術家連盟に加入し、小説を書いた。小説「一九二八年三月十五日」(『戦旗』に掲載)で注目をあび、ついで、代表作、⑥(a. 『海に生きる人々』 b. 『太陽のない街』 c. 『蟹工船』 d. 『カインの末裔』 e. 『播州平野』)を発表し、注目を集めた。1930年に治安維持法違

反容疑で逮捕され、出獄後、日本プロレタリア作家同盟書記長となった。1933年に再び逮捕され、拷問により殺された。他の代表作に、『不在地主』『工場細胞』『地区の人々』などがある。